

1 研究主題

表現及び鑑賞活動を通して、感性を働かせ、つくり出す喜びを感じ取る子どもの育成

2 研究主題設定の意図

学習指導要領では、表現活動及び鑑賞活動を通して、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うことを目標としている。

これまでは、ややもすると造形活動に重点が置かれ、鑑賞活動が十分に行われていない実態があった。そこで、今年度は、特に子どもの絵の見方と鑑賞活動に重点を置いて研究活動を実践した。

3 事業の実際

月日・時間	活動の概要（活動名，概要，指導者等）	会場・参加者数
6月22日 (水) 14:45 ～ 16:45	活動名 「子どもの絵の見方・描かせ方と絵の具指導の実際」 講師 古田洋司 様（元福井大学教授） 概要 前半は、造形性と心象（児童のイメージや思い）のバランスの取り方等の講義や児童画を見ながらの絵画指導のポイント等の講話をいただいた。後半の実技研修では、各自持参した絵の具で、用具の使い方と色づくりの基本を学びながら、実際に皿に絵を描き、各自が自分の小作品を持ち帰ることができた。	月岡小学校 27名
9月28日 (水) 15:30 ～ 16:45	活動名 作品鑑賞「美の軌跡 前川誠郎の美学」 作品解説 学芸課長代理 野村宏毅 様 概要 野村学芸員による企画展解説の後、部員は自由に館内を巡回し作品を鑑賞した。展示作品から初代館長である前川誠郎の業績と、西洋と日本の近代美術に見られる相互影響の軌跡を鑑賞を通して感じ取り、絵画を見る感性を養った。	県立近代美術館 26名

4 今年度の成果と課題

<◎成果 ●課題>

◎明日からの指導に生きる実技研修を実施でき、部員からも好評であった。

◎美術館で作品解説を聞き、実物の作品を鑑賞することを通して教養を深め、多様な絵画の見方ができるようになった。

●展覧会の会場が遠いので、部員に事前の連絡を丁寧に行っておく必要がある。

●授業研究を通して、研究主題に迫ることができなかった。次年度は、是非、授業研究を行いたい。